

くも・おひさま・イモリ みどり丘幼稚園（大阪府豊能郡）

戸外で伸び伸びと体を動かして活動できる園庭の他に、園の敷地に残る自然を生かした斜面の「ふくろうの森」や、「畑や飼育小屋」「ピオトープ」「裏山」など、様々な自然体験ができる環境をつくり、自然に親しみ自然の中で遊ぶことを大切に考えて実践を重ねている。

さらに、子どもたちの遊びにかかわりがある「天気」に関する自然にも興味や意識をもち、生活して欲しいと願うことで、子どもたちの様々な経験を援助することに結びついた。

3 歳児

4月から戸外遊びを存分に楽しんできた。その折々に、3歳児が空を見上げたり日の光や雲の様子、空の色など、空に興味をもつようなやりとりも重ねた。

3歳児でもわかる「飛行機雲」を見つけると「くも！」「ひこうき！」（飛行機雲のこと）などと喜んで見上げる様子が見られるようになった。

くも、できた！！

雲を楽しみ、新聞紙で遊んで、新聞紙を丸めて白いビニール袋にいれ、「くも」を作る。「くも！」「くもできた」と言う。完成した雲を保育者が持ち上げると、雲に触ろうと手を伸ばしたり「くも！くも！」「とんでいっちゃう」と言う。

4 歳児

5歳児が天気調べをし、天気を教えてくれることから、天気に興味をもつ子どもがいる。

太陽が出ていると影ができることに気付き、豆移し遊びで使っていた箸で、影を作って調べている（遊んでいる）と影が短くなったことに気付き「太陽さんがしゃがんだみたいだね！？」と言う子どもがいる。

影遊び

自分や友達の影を見る。「僕たちが動くと、この影も動くね！」と気付き話す。影踏み鬼など影遊びをする。

5 歳児

毎日のように、天気を調べて表示したり小さな組の子どもたちに話したりしている。（興味をもつ子どもたちが多いため、温度計の他、百葉箱や風向計などの環境がある）

雲が流れていることに気付き、「雲が全部同じ方向に行くね」「風が吹いている方向といっしょみたいだよ」と言ったり風向計を見に行ったりする子どもがいる。

イモリと天気

梅雨時にイモリが大発生した。「どうしてヌルヌルしているのか？」「餌は何か？」など疑問や不思議さを感じながら興味をもって観たり捕まえたりして、15匹飼うことにする。

<感じる・疑問やもつ>

- ・イモリにも手がある。
- ・指が4本だ。
- ・どうして体はヌルヌルするの？
- ・赤色の模様がある。
- ・気持ち悪い。・面白い。
- ・夜は寝るの？
- ・何を食べるの？
- ・餌はどうしたらいいの？



<考える・思いやる・確かめる>

- ・死んでつらい思いをしないように飼い方をよく調べよう。（5月に保護者が見つけた弱っている小鳥を育てていて、死んでしまった経験がある。）
- ・天気とイモリの様子を調べよう。「何でイモリには天気が分かるの！？」「しっぽでわかるの？頭で考えるの？」「本当に当たるの？」「2匹石の上にいる。明日晴れかな？」
- ・餌のミミズを見つける。食べるところを観る。「ケンカしているみたい...」ミミズにも命があることを考える。

みどころ

子どもにとって、天気は「外で遊べるか」「いつから遊べるか」という判断に必要な、身近な自然現象です。3歳児でも、空や天気を意識できるような経験や保育者とのやりとりがあることで関心をもち、見たり気付いたことや思ったことを言葉に表したりします。実態に合った教材で楽しみながら雲を表現し楽しむことにも結びついています。4・5歳児では、体験を通して感じたり考えたりしたことを表す子どもの言葉を丁寧に取り上げることで、子ども同士のやりとりが豊かになり、様々な表現が引き出されています。